

先生だより(特別バージョン)

本広報誌ではこれまでに「先生だより」へ 19 名の先生方にご登場いただいています。昨年の第 14 号に引き続き、今号では過去に中等に在籍されていた 2 名の先生にご寄稿いただきました。

先生だより

森瀬 智子 先生

Tomoko Morise

神戸大学発達科学部附属住吉中学校時代に赴任し、コーラス部を初の全国大会に導いた。現在は奈良学園大学で未来の音楽教員を養成中。

2008 年から 11 年間附属にお世話になりました。私が附属に赴任した当時の学校名は神戸大学発達科学部附属中学校でした。そこから神戸大学附属中学校→神戸大学附属中等教育学校へ改名。そんな附属へ赴任しての驚きは、朝の職員の朝礼で毎朝先生全員で歌を歌うこと。全教室にアップライトピアノが設置されていたことです。歌うことが好きな音楽教師にとってはこの上ない環境でしたが、まさか研究校である附属で吹奏楽部とコーラス部の両部の主顧問を担当するとは想定外でした。毎年の研究発表会の準備は大変でしたが、協同学習を知り、その良さを多くの先生方に伝えたい気持ちの方が大きく、何か面白いことはできないかと常に考えていたように思います。そのような中で 3 年間大学院の夜間に通わせていただきました。このように様々なことをやってみようと思えたのは、附属だからこそ、発想豊かで行動的な生徒の皆さんと協力的な保護者の皆様には大変お世話になりました。

赴任した当時、学年には 4 クラスありました。4 組は帰国子女クラスです。そのクラスの担任を任命された時は、海外旅行が好きで少し英会話を習った程度の私に担任が務まるのか？と少し不安でしたが、それは杞憂に終わりました。異文化の話も聞かせてもらい、世界が身近に感じられた附属でしか味わうことのできない 1 年間でした。

中等では 1 回生 1 組の担任の後、2 回生の主任を 3 年間、その後の 3 年間は大学院生と教員の 2 足のわらじ。そして最後の 1 年間は 8 回生の 1 年の主任をして附属卒業となりました。実は私が附属で出した

学級だより、学年だよりの題名は全て『粋(いき)な人』でした。覚えている方はいらっしゃいますでしょうか？

しかし、卒業のはずが、その 1 年後、非常勤講師としてお世話になり、現在も大学教員をしながらも、何故か附属にはコーラス部指導で通っており、通算 19 年目の附属とのお付き合いになります。結局、みなさんと同じように附属が好きなのです。中学生や高校生のきらきらした瞳は私のエネルギーの源なのかもしれません。



チャリティーコンサートでの一幕。ピアノは附属中学校 53 回生の植田さん、ハープは中等 6 回生の湊さん

また、一昨年度から附属のコーラス部の卒業生と一緒に還暦 Spring チャリティーコンサートをさせていただいており、これにも多くの附属の卒業生や保護者、先生方がお越し下さり、2年連続早くからチケット完売、満席という有難い状態でした。この場をお借りして御礼を申し上げます。

現在は奈良にある大学の教育学部で、中学高校音楽教員志望の学生と新規性のある協同学習を用いた音楽の授業づくりに取り組んでいます。毎年ゼミ生も音楽教員となって巣立ってくれており、その数は年々増え、中等とはまた違うやりがいを感じております。中等では実行委員が中心になって合唱祭等を企画していましたが、本学でも学生の発案、運営で卒業演奏会が実施されています。また、ゼミでは、ミュージカルやピアノの鑑賞に出かけたり、授業研究会に出かけて中学校や高等学校の先生方と一緒に学びを深めたりしています。現在は、元ゼミ生が勤務している沖縄の離島の学校で、現ゼミ生が音楽の出前演奏（授業）を計画中です。

還暦を迎えて『健康が一番、無理は禁物、でも、やりたいと思ったことはできるうちにやっとう！人生の折り返し（いや、とっくに折り返していました）思い残すことなく！』『ありがたいことにやたら還暦は同窓会が多い！10年後もみんなで会いたいね！』『平和大切！命大切！何かできることある？』そして、今一つだけ後悔していること『もっと元気な内に長期で世界を見ておくんだった・・・。』

中等生と卒業生の皆さんへ『若い時にしかできないこともあります。いつやるの？今でしょう！』森瀬の回顧録をお読み下さりありがとうございました。『皆さんに幸あれ！！』

先生だより

小 嵯 麻 由 先生

卒業生・在校生のみなさん、小嵯麻由です。2003年から2017年まで15年間附属でお世話になりました。附属住吉中学校から中等教育学校へ、大きく学校が変貌していく時期に勤めたこと、担任を持ちながら大学院に通ったこと、おそらく附属住吉の歴史のなかで初めて産休育休を取ったこと、国語科総合単元の授業作りにもがいたこと、吹奏楽部やコーラス部の皆さんと様々な大会を経験できたこと、附属で出会った生徒たち、保護者の皆様、先生方のことを感慨深く思い出します。

私自身、附属住吉中学校の卒業生です。教員になるための教育実習も附属住吉でお世話になりました。自分が学んだ附属を今度は教員の立場で経験し、豊かな授業がしたいと思い、教員10年目の節目に附属に転勤しました。小集団学習やリーダー学習は私が中学生だった1980年代すでに附属に定着していました。例えば国語の小説の授業では、班ごとに別々の課題図書が渡され、その内容を発表する学習をしました。万葉集も、班ごとに好きな歌を選んで調べ、発表する授業でした。私の班は額田王と天武天皇の有名な「あかねさす～」の歌を劇化してプレゼンしました。私はその時に万葉集の面白さに目覚め「大学で文学を学ぼう」と決めました。現在アクティブラーニングという学び方が推奨されていますが、附属ではとっくにそんな授業をしていたのです。また私の頃の附属住吉小学校には通知表がなく、附属住吉中学校には定期テストがありませんでした。その代



Mayu Ozaki

自身の母校である附属住吉中学校へ2003年に赴任。中等1、4回生等の国語を担当された。現在は神戸学院大学の教職教育センターで勤務。

わりに単元テストや単元レポートで評価されました。今でいう形成的評価やポートフォリオ評価です。すでに附属はそんな学校でした。

かつて附属住吉中学校と附属明石中学校は、互いに住吉校舎、明石校舎と呼び合い「定期交換会」という行事を年1回行っていました。今年は住吉、次の年は明石で、と交互に会場になり、相手の校舎に全校生が行って、クラス交流会や部活動交歓会などを1日かけて行うのです。ちなみに中等1回生・4回生後期を担当しておられた平松先生は、私と同学年で明石校舎出身ですから、生徒の時にすれ違っていたかもしれません。私は明石校舎の校歌が好きで今も歌えます。「朝明けていく海峡は～」という初めの歌詞ですぐに、美しい明石海峡の景色が目に浮かぶ素敵な校歌でした。

住吉と明石が統合され中等を創る過渡期に、それぞれの伝統や学校文化のなかには、失われていく部分がありました。特に明石校舎の痛みは大きかったことでしょう。私は卒業生として失われるものを残念に思う気持ちと、統合を進める者として新しい学校を創るのだと前向きに思う気持ちとがありました。今の中等教育学校の発展を見る時、これでよかったと思います。その時その時の生徒たちと先生方、そして保護者の方が学校を創っていく、それも、より質の高い教育のために、というところが、いつの時代も附属なのだと思います。

朝の連続テレビ小説は「あんぱん」です。中等4回生の国語科総合単元で「やなせたかし」を取り上げ、アンパンマンの映画を見ましたね。他の先生から「小寄先生は国語の時間に何をやってるんですか」と言われたことがありました。やなせたかしのエッセイを読んで、その生き方や平和に対する思いを読み取ったり、映画というメディアに表現されていることを話し合ったりするという、かなり破天荒な国語の授業でした。アンパンマンを教材にするということ自体、突飛に思われるような単元でしたが、アンパンマンは今や小学校の国語や道徳、中学校の英語の教科書にも掲載され、NHKでも取り上げている！と感無量です。全国で最初に教材として使ったのは私ではないかと自負しています。そんな自由な発想の授業を許してくれた附属という学校に勤めたことを、本当に感謝しています。

中学生の私を、新しいスタイルの授業で育ててくれた附属、教員としての私に様々な経験とチャレンジをさせてくれた附属、そして今も進化し発展し続ける附属、そこに関わる全ての方に感謝しながら、私は今、大学で教員養成の仕事をしています。附属からいただいた知恵や財産をできるだけ学生に伝え、豊かな教育を広げていきたいと思っています。

学 校 N E W S 短 信

2026 年度新入生から定員が 105 名に

来年春に入学する中等18回生から、学級定員が35名（現行：40名）、学年定員が105名（現行：120名）になることが発表されました。2031年度には全校生数が630名になります。

教育の質・環境の改善や公教育への寄与、少子化の進行を念頭に検討された結果とのことです。時代の流れに応じて変化していく母校ですが、卒業生としては変わらず応援していきます。

コーラス部が中・高ともに全国大会へ

9月23日(火・祝)に開催された全日本合唱コンクール関西大会において、中・高ともに金賞を受賞し、全国大会への切符を掴みました。全国大会は10月25日(土)、26日(日)に富山県で開催されます。

その他、2025年度前半の中等在校生の主な活躍は次ページの通りです。在校生が様々な舞台で躍動する姿に、引き続き期待しましょう。

中等生の活躍!!

(一部抜粋)
2025年9月 ver.

■ 男子テニス部

近畿中学生テニス選手権 第3位
兵庫県高等学校体育大会 男子団体戦 第5位

■ 陸上競技部

兵庫県陸上競技選手権大会 男子 5000m 第2位
兵庫県中学校新人陸上競技大会 1、2年男子 400m 第5位

■ コーラス部

関西合唱コンクール 中学生部門混声合唱の部 金賞
関西合唱コンクール 高等学校部門Bグループ 金賞

■ ESS 部

日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯全国大会 HPDU Competition 2025 Fifth Place
PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会 ベストディベーター賞
高校生英語パラメンタリーディベート連盟 新緑杯 全国大会 準優勝
全国中学生英語ディベート大会 第3位
Excellent Debater Prize

■ KP・FIT など

日本天文学オリンピック 銀賞
全国中高生 AI・DS 探究コンペティション 2025 優秀賞、日本統計学会特別賞
システム制御情報学会高校生によるポスター発表 優秀発表賞
スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会 生徒投票賞
全国物理コンテスト 物理チャレンジ 2025 第2チャレンジ(全国大会) 銀賞
第1チャレンジ 実験奨励賞
化学グランプリ 2025 銅賞(日本代表候補選出)
春季学術大会高校生ポスターセッション(日本地理学会) 理事長賞

栗本 彩晴さん [中等8回生]

皆様、お久しぶりです。あるいは初めまして。8回生の栗本彩晴と申します。

私が暮らす仙台では、少し肌寒く感じる季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。バックナンバーの素晴らしいご寄稿を拝見し、大変恐縮しておりますが、このような機会をいただけたことを嬉しく思います。現在の私の様子に触れながら、その原点ともいえる中等時代の思い出を少しだけお話しさせていただければと思います。

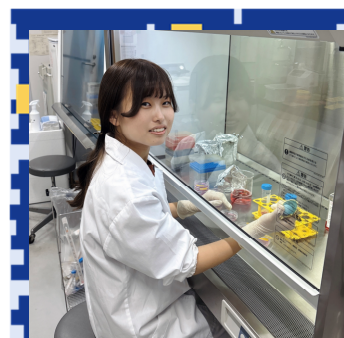
中等を卒業してから早いもので3年半が経ち、現在は東北大学農学部の4年生となり、食品化学の研究室に所属しています。そこでは肥満による慢性炎症に着目し、食品成分の抗炎症と抗肥満作用について研究をしています。特に今はアフリカの香辛料について調べています。午前中は細胞を培養し、午後には食品成分が細胞にどのような影響を与えるのか、タンパク質の変化などを測定、解析するという日々です。この研究が、毎日の食を通した生活習慣病の予防につながるかもしれないと考えると、大きなやりがいを感じます。

思い返せば、私が食への興味を意識したのは、KPで何であれば1年間まっすぐに取り組むことができるかを考えたときでしょうか、中等ではこのようなきっかけをたくさんもらいました。そして、ESDFoodプロジェクトに参加し、昆虫食に挑戦したり、フードドライブなどについて仲間と深く議論したりと、それを表現できる場がありました。苦しい時もありますが、自分で選んだ道だとはっきりと思えることは、私の大きな支えになっています。

研究以外には、ホテルの宴会場でアルバイトをしています。同窓会の会場をイメージしていただけると分かりやすいと思います。100名以上が在籍するアルバイトの中から毎日違うメンバーでチームが組まれるため、時には初めて会うスタッフと協力し、数百名のお客様をお迎えすることもあります。チームワークの大切さを日々実感しています。そして何より、アルバイトを通じて多様な背景を持つ人々と出会うことができました。幼稚園から高校までの15年間を神大附属で過ごした私にとって、その価値観の違い

は新鮮な驚きの連続でした。主体性があり、こだわりを大切にし、夢を持つ仲間たちに囲まれていた中等がいに恵まれた環境であったかを改めて実感し、卒業生であることを誇りに思います。

そして、中等時代の仲間たちと、今なお繋がりを持っていることは本当にありがたいことだと感じています。実は、中等出身の東北大生で毎年4月に集まっており、新たなつながりも増えました。はじめは、7回生の先輩と私のふたりだったのが、昨年度からは4学年が揃い、今年は7人で中等の思い出話にも花を咲かせることが



Iroha Kurimoto

中等8回生。在校時は家庭科研究部に所属。現在は東北で充実した学生生活を堪能中。来春には大学院に進学予定。



東北大学に進学した中等卒業生の集まりにて

できました。仙台は美味しいものがたくさんあって、緑豊かで素敵な街ですので、皆さんぜひお越しください。

改めまして、この度は寄稿の機会をいただき、中等や友人のことを振り返る暖かい時間を過ごすことができました。心より感謝申し上げます。来春からは大学院に進み、さらに研究を深めていく所存です。中等で育んだ探求心とともに、これからも精一杯進んでいきたいと思います。最後に、皆様がそれぞれの場所ですますご活躍されますことを心よりお祈り申し上げます。

寄付のお願い

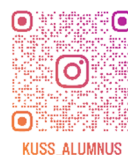
母校の教育活動の支援のため、寄付へのご協力よろしくお願いします。

附属学校部 HP : <http://www.schools.kobe-u.ac.jp/donations.html>



SNS で情報発信中！

Instagram、Xで同窓会関係の情報を発信しています！フォローお願いします



～同窓会からのお知らせ～

■ 本広報誌のバックナンバー：『陽菊-ひなぎく-』のバックナンバーを学校 HP に掲載していただいています。是非ご覧ください>> <https://www.edu.kobe-u.ac.jp/kuss-top/current/alumni/association/>

【編集後記】

7～9月の休日の過ごし方。7月：神宮球場にて高校野球の西東京大会を2試合観戦。8～9月：東京ドームにて都市対抗野球を3試合観戦。9月：神宮球場にて六大学野球を6試合観戦。その間にプロ野球も5試合観戦…。野球好きにはたまらない夏の東京生活で、プロアマ問わず楽しく球場での時間を過ごしましたが、そんな中でも特に六大学野球では、フィールドで躍動する選手と、それを全力のパフォーマンスで応援している学生の姿に、非常に感銘を受けました。

学生スポーツは面白いなと再認識している今日この頃ですが、そんな私の「大学生の試合」の原体験は、小学校低学年の時に観た神戸大学 Ravens（アメリカンフットボール）でした。学校みんなでRavensを応援しようという企画があり、王子スタジアムで観戦したのを昨日のここのように覚えています。その後、附属住吉小学校ではフラッグフットボールのJr. Ravensが結成され、フットボール文化が醸成されました。

そんなフットボール文化を築かれた重要人物の一人、森一弘先生が、つい先日、残念ながらお亡くなりになられたという話を聞きました。まだ60代半ばで、早すぎるご逝去に驚きを隠せません。心よりご冥福をお祈りいたします。

このショッキングなニュースを知ったのは、ちょうど森瀬先生から玉稿をお送り頂いたタイミングで、「できるうちに」「元気な内に」という言葉に心を打たれました。まさに、お世話になった先生方（もちろん、同級生も）が元気な内に、何度も同窓会を開催したいな、と感じています。

1回生の皆さん、来年度は30歳になる節目の年なので、盛大に同窓会をしますよ！（1回生 小黑）

（次号は2025年12月31日発行予定です）